



創刊号 令和2年9月1日発行

 **社会福祉法人 和歌山つくし会**

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1
TEL：073-488-7470
FAX：073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665
TEL：0736-69-1772
FAX：0736-69-5251



ご挨拶

社会福祉法人和歌山つくし会

理事長 谷本 美佐子

昨年の12月に前理事長中谷博昭先生から理事長職を引き継がせていただきまして、半年以上が経ちました。現在の法人の各施設の状況を理解・把握するとともに、可能な限り会議等にも出席し、現場の声を聞くように努めております。職員の皆様方はコロナウイルスのために大変気をつかい、また圧倒的にストレスフルな環境であるにもかかわらず、各持ち場を守り抜いて下さっています。

今まさに第2波の到来と言われており、皆様は個人的にも大変気を使われて日々を過ごしているんじゃないかと思います。日本、そして世界で未だに多くの方が苦しんでいることに思いを馳せ、不幸にして亡くなられた方々のご冥福を祈りつつ、今後に備えていきたいと思っております。

さて、昨年50周年を迎えた和歌山つくし会ですが、その成り立ちや歴史を振り返ってみると、これまで数えきれないほど多くの方々からご理解とご支援を賜ってきたこと、そして、患者さんや利用者さん、園児さん達を家族のように思って接するという、和歌山つくし会の発祥時からの精神が連綿と受け継がれていることを再認識し、日々感動を新たにしております。まだ戦後の傷跡が残っていた昭和20年代、「子どもたちを守る」という精神で生まれた活動が乳児院、重症心身障害児・者施設、保育所などに発展し、和歌山つくし会は現在ではその規模、行き届いた保育・教育、医療・介護とともに日本の代表的な社会福祉法人の一つになりつつあります。これからは新型コロナウイルスの他、経済格差、少子化などによる益々難しい時代に突入することが予測されています。和歌山乳児院、つくしの里こども園、つくし幼保園、広瀬幼保園、和歌山つくし医療・福祉センター、この5つの代表的な施設が共に手を取り合い、今後も地域の医療・福祉に献身し、共により幸せに生きることが出来るように新しい時代を迎える準備をしまりましょう。



イタリアから新理事長がやってきた！！

つくし医療・福祉センター

院長 飯塚 忠史

突然ですが、私たち夫婦の趣味は海外旅行です。40年前の新婚旅行にインド最南端のコモリン岬（カンニャークマリ）に行ったのを皮切りに、30年ほど前から毎年のように2人で行っていきます。5大陸はすべて行きました。北アメリカはサンフランシスコ、ニューヨーク、カナダ。南アメリカはイグアスの滝、天空の都市マチュピチュ。ヨーロッパもいろいろ行き、去年はクリスマスマーケットを回る旅でした。オーストラリアのウルル（エアーズロック）、アフリカはビクトリアの滝とサファリ。もちろん中国も少し。若いうちは二人でバックパッカーでしたが、最近では荷物を背負うのが大変で団体旅行になりました。

人生のたそがれ時の私たちが、最後にどこに行きたいかと話し合った時に一致するのは、イタリアです。名画「ローマの休日」で、訪問したヨーロッパの中でどの街が最も良かったかと報道陣に聞かれた王女役のオードリィ・ヘップバーンが「やっぱりローマ！」と言ったイタリアです。私たち二人はローマも好きですが、さらに南のナポリが大好きです。あかるく、あたたかい風土。真っ青な海と空の間を船でいくとカプリ島と青の洞窟。電車で行くとベスビオス火山とポンペイの遺跡、バスで海岸沿いのくねった道を行くと真っ青な海がきれいなアマルフィー。岩をくりぬいた住居が並んだ街サッシもあります。

さて、今回発刊されたこの雑誌の名は「つくしジャーナル（Giornale TSUKUSHI）」です。Giornaleはイタリア語だそうです。発刊の目的は和歌山つくし会内部の情報交換を活発にし、風通しを良くすることだそうです。昨年、社会福祉法人和歌山つくし会の理事長に就任された谷本美佐子新理事長の発案です。新理事長はイタリア生活が長かったと聞きます。お会いすると明るく、あたたかい、何かイタリア的な雰囲気があります。私たちのつくし医療・福祉センターは2008年に岩出療育園（80床）と、桃山療護園（50床）が統合（136床+ショートステイ12床）し、その後在宅部門も充実して、今では職員数は220人を超え和歌山県内の社会福祉法人では別格の規模になりました。会社で言えば立派な中企業ですが、急拡大した組織にありがちな課題もあります。これからは力を合わせてより風通しの良い「あんしん」な施設、コンプライアンスを守り、スタッフを大切に作る施設にセンターを変えていくことが課題です。和歌山つくし会を更に発展させるため、イタリア的な「あかるく・あたたかい」新理事長のもと、皆で力を合わせませんか。

追伸：「つくし」とは植物の「つくしんぼ」の「すくすく育つ」という意味と共に「尽くす」という言葉から命名されたと聞きました。原点に返って「利用者さんに尽くす」、さらに「社会に尽くす」ことも大切にしたいですね。



「フォスタリング」

和歌山乳児院

院長 森下 宣明

さまざまな理由で、実家庭で育てられない乳幼児を児童相談所からの措置（行政処分）でお預かりし、24時間365日養育するところが乳児院です。全国には140カ所余りの乳児院があり、和歌山県には和歌山市、海南市、田辺市にそれぞれ市立乳児院がありましたが、昭和50年代にはすべて廃院となり、昭和48年8月1日から和歌山市立乳児院を引き継いだ当院だけとなりました。

子どもの権利条約の我が国の批准から22年、平成28年に改正された児童福祉法では、子どもは権利の主体として位置づけられ、子どもの家庭養育優先原則が明記されました。乳児院は、その本来の機能を向上させることはもとより、子どもたちが幼い時からできるだけ家庭生活が営めるように里親委託を進めるという国の方針に則り、平成23年に里親支援センターなでしこを設置し、積極的に活動しています。

里親支援センター「なでしこ」の業務のひとつとして「フォスタリング」があります。

「フォスタリング」とは、里親支援のことであり、「なでしこ」では主に紀北地域の里親子支援を行っています。

支援の内容は多岐にわたり、里親家庭に委託されている子どもたちの支援を中心に、里親家庭の養育において起こり得る様々なことについて、心理士を含め3人の職員体制で相談支援を行っています。

里親の種類は、養育里親、専門里親、親族里親、養子縁組里親、季節・週末里親に分かれていて、子どもたちのニーズに合わせて、児童相談所が決定します。

養育里親になるためには、次の手順が必要です。

- ① 児童相談所に申し込む
- ② 里親登録前研修（座学・実習を含めて延4日間）を受ける
- ③ 児童相談所による家庭調査
- ④ 家族全員の健康診断書、前年度の源泉徴収票、住居の間取り図等の提出
- ⑤ 和歌山県社会福祉審議会・児童福祉専門分科会・養護保育部会で審議
- ⑥ 和歌山県知事が養育里親として認定し登録される

また、登録後、5年毎の更新研修の受講が必要です。

こうして、里親登録ができて、里親を必要としている子どもたちの紹介がすぐにあるわけではありませんが、里親は、どのような子どもを紹介されたとしても応えられる覚悟が必要です。



令和2年7月現在、和歌山県子ども・女性・障害者相談センターから養育里親、専門里親、親族里親、ファミリーホームに委託されている子どもたちは約60名になります。

まだまだ、里親家庭の数は足りていません、「もっと里親のことを知りたい」、「里親になりたい」と、お考えの方がおられましたら、是非「なでしこ」にお問い合わせください。

(TEL: 0736-69-1004)、HPも近日リニューアルの予定です。

最後になりましたが、子どもたちそれぞれの育ちに寄り添い、里親家庭から頼りにされる機関となるよう、今後も「なでしこ」の機能を充実させていきたいと思っております。





“つくし幼保園”で働く楽しさ

認定こども園 つくし幼保園

園長 岡 孝 江

つくし幼保園は、認定こども園法において「学校及び児童福祉施設」として位置づけられた「幼保連携型認定こども園」であって、小学校就学前の子どもの教育に保育を一体的に行い、子どもの健やかな心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援を行うことを目的とした施設です。また、認定こども園法で定められた、保育士資格と幼稚園教諭免許を併有する「保育教諭」が働いています。

保育教諭は「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている小学校への接続にむけ「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を目指して、子ども一人ひとりにあった基礎となる幼児教育・保育を、保護者の協力を得ながら実践しています。その他に、親子で遊ぶ「つくし広場」を開催したり、未就園児の親のために毎週火曜日に「にこにこ広場（広場型事業）」を実施して、参加した親子に触れあう遊びを楽しんでもらったり、育児の情報発信や育児の相談に応じるなど、子育てが楽しくなる支援も行っています。

また、当園では地域の中で孤立しがちな親の育児疲れの軽減のためや、冠婚葬祭・就労形態等によって12日以内で利用できる“一時預かり事業”を実施していますので、この事業を利用して来園する子どもの保育にも特定の保育教諭が携わっています。

こうした保育業務に従事していると、何かしら困難な問題に直面する場合があります。そのようなときには、上司や同僚と一緒に考え助け合っていることから、長年勤める保育教諭も増えてきています。

そのような職員に、“保育教諭の仕事のやりがい”を尋ねると、「日々の保育で子どもの成長が見られること」、「子どもから“先生大好き!”と笑顔で言ってもらったとき」、また「保護者から“先生に我が子を見てもらえてよかった”とか、「先生に話を聞いてもらって安心した」と言われたとき」だと、笑顔で答えが返ってきました。

いつも書類に追われている保育教諭たちですが、子どもに接するときの顔には、優しい笑みがこぼれています。また、送迎の保護者には笑顔で対応しながらその日の子どもの様子を嬉しそうに伝え、その子の将来への成長を楽しみに語り合っている姿に、強い責任感をもって働いているのを感じます。

この前向きな保育教諭たちのために、いつまでも働きやすい楽しい職場の雰囲気づくりに力を注いであげたいと思います。そして、子どもたちの未来が幸せいっぱい輝くよう願っています。



障害児・者支援の現在・未来

つくし医療・福祉センター小児科

部長 紀平省悟

1. 障害児医療におけるニーズの変化

当センターの主たる役割は「重症心身障害児・者」の支援ですが、それに加えて最近『発達障害』をもつ子どもたちのニーズが見えてきました。日本で言う『発達障害』という用語は、主に自閉症、ADHD、学習障害などを指します。外見は普通に見えるので何となく「軽症」とみなされがちですが、狭い意味の医療よりむしろ養育や教育など環境に働きかけるニーズが大です。成人になって診断されることも珍しくなく、アプローチは決して容易ではありません。

ところで、障害児医療に横たわる別のもうひとつのニーズが「トラウマ」です。脳画像研究の進歩はトラウマ理解を決定的なものにしました。トラウマは脳を変えてしまうことがわかってきたのです。『心の傷』は『脳の傷』であり、生理機能や精神活動をゆがめます。慢性のトラウマでは知的能力さえ低下することがあるのです。

私の外来診療の中心は発達障害臨床とトラウマ治療です。「発達障害」と「トラウマ被害（とくに虐待、いじめなど）」の2つが重なり合う領域にこそ、じつは複雑な課題が潜んでいます。DVが明らかになったり、親自身の治療を依頼されたりすることも増えてきました。

2. トラウマ・インフォームド・アプローチ

トラウマにたいする感性が研ぎ澄まされてゆくにつれ、支援者のまなざしは家族や社会の病理へ注がれ、自らにもはねかえって来ます。トラウマへのアプローチは組織や制度の問題を浮き彫りにし、支援者自身の欠点や傷つきを自覚させるからです。そこで十分なセルフケアが、そして同じ立場同士のサポートが不可欠となるのですが、その事は当事者・家族にも当てはまります。同時に、回復を支えるには、支援者が所属する組織とともに向上していくことが重要です。不透明、不公正な力関係が組織を支配していると、それが支援のひずみとして再現されてしまうからです。

このような考え方、すなわち「トラウマの理解に基づいた支援」をいちばん的確に表現するのが、『トラウマ・インフォームド・アプローチ』という言葉です。たとえば米国のある団体(SAMHSA)は以下のような原則を公表しています。

<トラウマ・インフォームド・アプローチの6つの主要原則 (SAMHSA) >

- 1) 安全
- 2) 信頼性と透明性
- 3) ピアサポート
- 4) 協働と相互性
- 5) エンパワメント、意見表明と選択
- 6) 文化、歴史、ジェンダーの問題

3. 新たな方法論としての対話実践 (ダイアロジカル・プラクティス)

じつは私が当センターに奉職した当初からずっと心にかかっていたのは、乳児院の子どもたちでした。訪問を始めると、おどろくべき事に、そこには『発達障害』の子どもたちがたくさんいたのです。私はすぐに壁に打ち当たりました。ほとんどの子をセンターに連れてゆき、医師、心理士、PT、ST、OTが別々にアセスメントをし直し、最後はリハのスタッフに任せるという流れ作業になってしまったのです。そこで私は、多職種チーム (OT、ST、看護師、複数の医師) が訪問して、乳児院のスタッフが同席する対話的ミーティングに変更しました。全員がプレイルームで子どもを囲みながら、行動観察をしつつ平等の立場で対話するスタイルです。こうして多面的なアセスメントが一度に済み、実行可能な提案が即座に出され、現場の保育士さんがすぐに試してフィードバックを返す、といった協働作業が可能になりました。難解な専門用語が飛びかうこともなく、現場の不安が解消されて取り組みが積極的になり、しだいにセンターへの受診回数が減って行きました。日本中のどこにもない試みだとひそかに自負しています。

このような対話実践はフィンランド人から学んだスタイルが原型です。すでに診療、院内外の研修、ケース会議、家族との葛藤解決などに導入し、手ごたえを感じています。今後は訪問事業や地域連携事業にも広げていきたいと考えています。この実践で重要なのは、参加者全員の安全・安心、率直さと信頼、透明性、平等性、多声性 (多様な声を聴くこと)、仲間同士の支えあい、当事者・現場の選択を尊重すること、専門枠を越える社会学的視野をもつことです。つまりトラウマ・インフォームド・アプローチの理念とも良く響きあうわけです。

令和2年度 新規採用職員・異動職員

4月

中 林 紗里奈 (センター2F 保育士)
山 崎 倫 奈 (センター3F 介護員)
黒 田 晋 平 (センター言語聴覚士)
岩 崎 恵 (センター事務員、乳児院より異動)
東 優太郎 (センター1F 指導員、乳児院より異動)
岩 橋 志 穂 (センター3F 看護師)
北 端 智 加 (つくしの里 こども園)
和 田 万智子 (和歌山乳児院、センター事務員より異動)
藤 井 寛 子 (センター1F 看護師)
吉 本 利 恵 (センター2F 看護師)

5月

明 治 諒 (センター医療事務員)
藤 根 亜 希 (センター1F 看護師)

6月

正 木 理 恵 (センター事務員)

7月

穀 田 浩 美 (センター3F 看護師)
西 上 明 里 (センター事務員)
玉 置 尚 司 (医師)
脇 田 洋 介 (センター多機能介護福祉士)
小 林 愛 (センター2F 看護師)
井 上 芽 (つくし幼保園 保育士)
末 永 朋 子 (つくし幼保園 調理師)
土 橋 佳 代 (和歌山乳児院 保育士)

和歌山つくし会 本部職員のご紹介



岩崎 恵

山本 加珠恵

岩崎 恵

経験年数：5年

担当業務：本部・乳児院・こども園
つくし幼保園・広瀬幼保園
経理・給与・労務

趣味：読書

一言：4月に和歌山乳児院から異動して
来ました。皆さんのお役に立てる
ように頑張りたいと思います。

山本 加珠恵

経験年数：3年

担当業務：本部・乳児院・こども園
つくし幼保園・広瀬幼保園
経理・給与・労務

趣味：毎朝30分のウォーキングで、骨
密度がよくなりました！

一言：まだまだ勉強不足ですが、頑張り
たいと思います。



福元 凡子

林 恵子

福元 凡子

経験年数：7年

担当業務：つくし医療福祉センター経理

趣味：スポーツ観戦

一言：頑張りますのでよろしくお願
いします！

林 恵子

経験年数：10年

担当業務：労務、給与全般

趣味：ミニ観葉植物を育てること

一言：至らぬ点多々あると思いますが、
業務を円滑に進められるよう頑張り
ます！

つくしっ子ニュース!! 異動職員インタビュー

今年度異動になりました和歌山乳児院副院長の和田万智子さんと和歌山つくし医療・福祉センターの医療クラーク川口ゆかさんにインタビューをしてみました。4月から環境が変わったお二人、現在はどのような状況でしょうか？



和田万智子さんインタビュー

創業以来60年以上になる和歌山つくし会ですが、長い歴史の中で親子2代にわたってお仕事をしてくださっている方もいらっしゃいます。その中のお一人、乳児院副院長の和田万智子さん（以下W）にお話をうかがいました。

1. 和田副院長のつくし会との出会いは？

W：母が退職するまで桃山療護園の事務員で、その後は本部事務職員としてお世話になりました。私は平成15年に保育士として桃山療護園、16年に岩出療護園、その後は平成21年に和歌山乳児院の事務員として、その後本部事務員を経て今年度和歌山乳児院に副院長として異動しました。

2. 現在の乳児院について教えてください。

W：こちらでは、何らかの事情で家庭養育が困難になった3才までのお子さん達が生活しています。親御さんが病気で養育できなくなったり、また虐待などの事情で来た子どもさんが多いです。心理士も常駐し、専門的な養育を行っています。やはり一番良いのは家庭に戻るという事ですが、それが困難であれば里親に委託することを目指します。こちらでは、里親支援機関の「なでしこ」があり、里親支援専門の相談員がいます。

3. それが現在の政府の方針でもありますね。海外では養子を迎えたり、里親として育てることはもう少し広まっているように思われますが、日本では現実的にまだまだ壁があるようですね。

W：「なでしこ」も精一杯活動しています。里親希望者に理解を深めてもらうというプロジェクトが進行中です。どうしても無理な場合は養護施設に措置変更となります。やはり、乳幼児期にあたたかい家庭で育つという事は小さい子にとってとても重要なことです。

4. 保育の経験は既におありだったようですが、副院長さんとなりますと全体的に見ていく視野の広さも必要になりますね。

W：療育園のほうでは障害の方が対象でしたし、乳児院のほうでは前回事務職でしたので、最初は全く未知の世界のように感じました。心理士さんの院内研修や、虐待を経験した子どもさんとの間で愛着関係を育てるなどのことがとても大切です。一般家庭では当然のことがここでは大変重要なスタートになるのです。そのため必ず、一人の職員が一人の子どもの担当となり、信頼関係を築きながら次のステップに行くようにしています。それが人間の一番の基本的な部分ですね。

5. 乳児院は本当に重要な位置にありますね？ 私たちに何か出来ることはあるのでしょうか？

W：里親制度に興味を持っていただくこと、まず知って頂きたいと思います。

家庭復帰が理想ですが、しかしそれが無理な場合は家庭養育に代わる環境が必要です。入所理由もどんどん複雑になってきているので専門的な知識や支援がますます必要になってきます。子どもさんをただ預かっておく、というだけではだめなのです。

6. これからの目標や理想について教えてください。

W：それぞれの子どものケースをもっと理解し、理想はこちらの子どもさん全員の幸せです。施設で経験したことを自分の力とし、心身ともに健康に成長し、将来起こりえる困難にも立ち向かっていって欲しい。幼少時の愛着関係を育て、人を信じる、そして自分自身を信じるという根本的な力を養ってほしいと思います。

7. 最近嬉しかったことは何ですか？

W：髪をカットした次の日に3歳の子が、私を見て「万智子ちゃん、髪を切ったの？」と聞きました。こちらが子どもたちを見ている立場だと思っていたのに、こんな小さな子が私のちょっとした変化を見てくれた、と思うと胸が熱くなりました。とても嬉しかったです。

和歌山つくし会は昭和20年代、まだ戦後色の残っていた時代に小さい子どもさんを守っていきこう、という考えから生まれました。そういう意味ではこの和歌山乳児院はつくし会の生誕の地という事になります。和田副院長、今後ともよろしく願いいたします。



川口ゆかさんインタビュー

医療クラークというポストは和歌山つくし会においてこれまでになかった職種です。センターの医療が昔と比べて多岐にわたってきたこと、そして今後もますます複雑化し、発展することが予想されます。その中で初めての医療クラーク川口さん（以下K）からお話をききました。

1. 医療クラークというのはどのようなお仕事ですか？

K：簡単に言うと医師事務補助作業の業務です。医師の書類作成の補助、診察記録への代行入力、あるいは予約の調整、各コ・メディカルのメンバーとの調整などを行います。

2. 最近大学病院などにおける医師秘書業務との違いは何でしょうか？

K：個人医療秘書というのはあるドクターに関する管理、あるいは医療的な知識がかなり必要な業務のようです。学会への同行、予約調整など似たようなところもありますが医療クラークは医師に限らず、医師と看護師、医師とセラピストなどの方々とのつなぎ役となります。

3. それでは補助、調整、全体を見渡す能力が必要になりますね。お仕事は多岐にわたっていて責任も重大ですね。

K：外来は発達障害の方が主に来られますので学校とのつなぎ役として私が入ることもあるので気を引き締めてやってゆきたいと思います。去年までは医療事務、受付、会計、レセプト請求と掛け持ちでしておりましたが、今年からはクラーク業務に専念しています。初診患者様の予約調整、患者様の状態のききとり、あるいはすでに来院されている方々で状態が悪くなった時のききとりをし、予約（医師、あるいは心理士）の調整などを行っています。

4. ますます専門的になったわけですね。何か心理学的な勉強をされましたか？

K：フィンランド発祥の「オープンダイアログ」「アンティシペーションダイアログ」のファシリテーターとしてのトレーニングを受けました。議論や説得するのではなく、落ち着いて話し合い気出来る、又は相手の話に耳をかたむけるといった「聞く」と「話す」を分ける対話の勉強です。まだまだですが、トレーニングを受けたことによって、患者様のご父兄の困りごとを落ち着いて聞き取れるようになりました。また現在、相談支援従事者の初任者研修も受けております。

5. それらの研修はクランクになる為に受けるように言われたのですか？

K：もともと興味がありましたし、つくしの外来業務に必要なと思ったので、自主的に勉強しました。



6. 最近どのような患者さんが多いですか？

K：初診希望の方が多く、未就学児の初診希望の方は、小児発達外来へのご案内、小学生から中学生は児童精神科へのご案内になります。今課題になっている部分は「卒業」という事についてです。初診後の治療は中3で終了する予定ですが治療期間が伸びている方が多いので初診予約を調整せざるをえない状況になっています。

7. どのようにすれば解決できますか？

K：地域連携が必要になります。医療に繋ぐべきなのか、福祉施設なのか、或いは在宅ケアでいいのか、それぞれのニーズに合ったコーディネートが必要になります。外来患者様に限らず入所される方、今後される方々も含め、地域への移行や或いは逆に受け入れ出来るように、医師やコ・メディカルがチームとなって患者様が安心して卒業又は入所して頂けるように地域連携室が必要かと思われまます。

8. スポットとしての治療だけではないという事ですね。大変な作業になると思いますが地域と連携しつつ患者さんの将来について考えてゆくという事は患者さんのご父兄の方々には大変心強く思われることでしょうか。

K：少しでもパイプ役になればよいと思います。その他、外来患者様にはゲーム依存や引きこもり、不登校、色々のケースがあります。将来の支援につなげていけるつくし会の中でのチーム医療として発展していけば良いと思います。

つくし会の未来につながる大変興味深いお話でした。川口ゆかさん、インタビューのご協力を誠にありがとうございました。

つくしっ子ニュース！！

つくし幼保園の岡園長先生のお家に新しい仲間がやって来ました！名前は「ちび」です。道に迷った「ちび」は、園の駐車場に紛れ込み、何と保育士さんの車のボンネットの中に入り込み、哀れな声でニャーニャーと泣いていたのです。

「この子をどうしましょう、園長先生?! 飼いたいですが、私のアパートではペットは禁止なんです!!」と泣き崩れる保育士さんに、「安心して下さい、私が何とかしましょう!」と胸を叩いた園長先生、ご近所にも張り紙をして元の飼い主の捜索に乗り出しました。しかし待てど暮らせど誰からも連絡はなく、、、。そして「ちび」は園長先生のお家に連れられていきました。今までは一人っ子だった12歳の先輩ネコの「ミー子」は遠慮しながらも歓迎してくれ、「ちび」は堂々たる態度で園長先生のおうちで生活しています。



元の飼い主にお心当たりのある方、または猫好きの方、つくし幼保園までご連絡をお待ちしております。

認定こども園 つくし幼保園 073-488-7470

つくし会 ミニ歴史

のマークにお見識りおきを！

このTというシンプルなマーク、今回初めてご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか？これは初代理事長・谷本千鶴先生が、50年前に社会福祉法人「和歌山つくし会」を創設された時に自らデザインした法人章なのです。つくし会を表すTの文字の周りには大地から伸びる人の輪です。

「子どもも大人も、障害のある人もない人も共に皆で頑張っていきましょう!」という深い思いと願いが込められています。（談：つくし会事務局次長 岡孝江）



新型コロナに負けない！！

新型コロナウイルス感染症の拡大はとどまるところを知りません。

当センターの利用者は、高齢で重症の障がい者も多く、高リスク郡の方々ですが、地域支援を少しでも支えるお手伝いをと考えています。

センターの周辺でも感染者や濃厚接触者等の情報を耳にしますが、新型コロナウイルスの感染対策をしっかりして、新型コロナウイルスに負けないで頑張ります。

和歌山つくし医療・福祉センター

センター長 林 龍太郎

みんなで 守って、 乗り切ろう ネ！



つくし医療・福祉センター
飯塚忠史 院長

和歌山つくし医療・福祉センター
林 龍太郎 センター長

つくし医療・福祉センター
小浦 由加里 療育部長



訃報

川口吉雄名誉会長を偲ぶ

常務理事 森下 宣明

令和2年8月13日に、川口吉雄名誉会長がお亡くなりになりました。

社会福祉法人和歌山つくし会・役職員一同、心からお悔やみ申し上げます。

平成9年6月に、当法人5代目理事長・故井上彬先生からの依頼により理事に就任されて以来、平成11年6月からは副理事長として、平成13年12月からは当法人6代目の理事長として5期10年の任期を全うするとともに、その後も会長として、令和元年12月に退任されるまでの8年間、通算して22年間、当法人を見守ってくださいました。

故井上彬先生との約束であった、初代理事長・谷本千鶴先生の関係者に法人を引き継ぐことが出来、天国でほっとされていることと思います。

コロナ禍の中、役職員を代表して最後のお別れができたことは何よりでした。

長年のご指導に心から感謝いたします。

編集後記

これまで和歌山つくし会では5つの施設が各々新聞や小冊子を発行し、その時々状況や事業計画についてお知らせをしてまいりました。和歌山市と岩出市にわたる施設間で職員同士の交流や他の施設の状況について知ることは、皆様の日常の忙しい業務の中では難しいのではないかという思いに至り、今回初めてつくし会全体の新聞を発刊させていただき運びになりました。日々がんばっている皆様にスポットをあてながら、楽しい話題やエピソードなども提供して参りたいと思います。投稿もお待ちしています！！

谷本

